

# 養父市立八鹿小学校

# 令和5年度学校評価

## 1 本年度の学校教育目標

ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成
------------------------------------

## 2 本年度の学校重点目標

学校経営スローガン	“よろこび”が生まれる学校づくり ～すべての子どもたちの笑顔のために、誰一人取り残さない教育の創造～
めざす児童像	【 知・徳・体 】 ・学ぶことのよろこびを知り、自ら学び続ける子 ・「がんばること」をよしとし、共に生きるよろこびを感じる子 ・元気な体と元気な心の大切さを知り、健康に生きようとする子
めざす教職員像	・子どもへの愛情と教育への情熱にあふれた教職員 ・子どもとともに学び続けようとする教職員 ・子どもののびしろを信じる教職員
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 創立150周年の伝統を十分に活用し、地域とともに「よろこびが生まれる学校」づくりを推進する</li> <li>■ 子どもへの愛情と教育への情熱にあふれ、探究心と学び続ける意欲をもった教職員を育成する</li> <li>■ 確かな学力を育成するための指導の充実を図る（表現するよろこびを感じる八鹿っ子の育成）</li> <li>■ 「よろこび」につながる教育活動を創造し、自尊感情、自己肯定感の醸成を図る</li> </ul>

## 3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況○・改善の方策●
(1) 学校運営	<p>“よろこび”が生まれる学校づくり ～すべての子どもたちの笑顔のために、 誰一人取り残さない教育の創造～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 一人一人が大切にされ、安全・安心な学校</li> <li>■ 明るい子どもの声が響く活力のある学校</li> <li>■ 保護者や地域とともに歩み、開かれ信頼される「地域とともにある学校」</li> </ul>	A	<p>○児童は全体的に落ち着いて生活している。今年度のスローガンである「よろこびが生まれる学校づくり」を全教職員が意識し、明るく活気のある八鹿小学校となるよう全員で取り組んでいる。</p> <p>○児童が学校行事に主体的に関わり、達成感を持たせることができた。</p> <p>○友達のがんばりを素直に応援したり、困っている友達を手伝ったりする姿がみられ、お互いに認め合い支え合う雰囲気ができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「学習面で取り残されている」と感じている保護者が少数ではあるが</li> <li>● 保護者の声・地域の声を集めつつ八鹿小学校ならではの教育活動を継続・発展できるよう、創意工夫を続ける必要がある。</li> </ul>
(2) 生きる力を育む教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>【「確かな学力」の育成】</li> <li>○「語り」と「対話」による深い学びの創造</li> <li>○学習タイムの系統的取組</li> <li>○自主学習の取組の推進</li> <li>○読書活動の充実</li> <li>○ICTの効果的活用</li> <li>【「豊かな心」の育成】</li> <li>○「東井先生の言葉12ヶ月」の活用</li> <li>○安心して学び、高め合える学級経営の推進</li> <li>○粘り強く諦めない心の育成</li> <li>○他者との関わりを意識させる取組</li> <li>○道徳の推進</li> <li>○やぶ・ふるさとキャリア教育の推進</li> <li>【「健やかな体」の育成】</li> <li>○運動が好きな子の育成</li> <li>○体幹を鍛える取組</li> <li>○心と体の健康の発信</li> <li>○食育の推進と継続</li> </ul>	A	<p>○校内研修では、国語科の物語文を中心に系統立てた指導のあり方について研修を深め、児童の主体的・対話的で深い学びにつながるよう研鑽を積んだ。</p> <p>○学びのツールとしてタブレットを活用するだけでなく、コミュニケーションツールとして活用する機会も増え、児童の学習道具として浸透してきた。</p> <p>○全校朝会の校長講話で「東井先生の言葉12ヶ月」に触れ、児童会が生活目標を決め、各クラスで具現化するというサイクルができ、生活目標を意識して過ごす児童が増えた。</p> <p>○体幹トレーニングを取り入れたり、体育でリズムジャンプやサーキットを取り入れたりすることで、体幹や基礎体力が付き、多様な動きに慣れ親しむようになってきた。教材やルールの工夫等、教師間で情報交換が盛んにされ、運動に親しみやすい工夫ができている。</p> <p>○体育委員会が企画した大縄大会や隣接学年同士のドッジボール対決など、児童が主体的に企画し参加している活動が増え学級経営の点でも体力作りの点でも大変有効だった。</p> <p>○隣接学年との合同学習や幼・小・中と連携した取組、地域の方に協力を得ながら進めた校外学習やクラブ活動等、いろんな交流を通して、豊かな心を育てる活動がたくさんできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 視力の低下・肥満の増加・不十分な朝食、未処置の虫歯など、学校からの発信や危機感が十分伝わっていない家庭がある。</li> <li>● 保護者の意見から、家庭学習や読書への取組は、個別に対応する必要があるが、まだ不十分な点が多い。定期的な振り返りが次の取組につながる必要がある。</li> </ul>
(3) 子どもの学びを支える取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>【生活指導の充実】</li> <li>○いじめ・問題行動の早期発見・早期解決に向けた取組</li> <li>○不登校解消に向けた取組</li> <li>○規範意識の醸成</li> <li>○児童理解と共通理解</li> <li>【組織的・機動的な支援体制】</li> <li>○組織的な指導体制の確立</li> <li>○多面的な児童理解と支援体制</li> <li>○特別支援教育の充実</li> <li>【危機管理体制の確立】</li> <li>○「新しい生活スタイル」の更新と実践</li> <li>○安全な生活環境</li> <li>○防災教育</li> </ul>	B	<p>○教職員間の情報交換ツールを活用し、気になる児童の様子や全体に周知する連絡等を共有し、短時間で全職員共通理解を図ることができた。</p> <p>○学期に1回の生活アンケートにより、児童の実態把握とアンケートを踏まえた面談、指導を随時行うことができた。</p> <p>○毎月の児童理解委員会や子どもを語る会、適宜行うケース会議や関係機関との会議等で、支援を要する児童の対応について共通理解を図る場が確保され、指導に生かすことができた。また、課題解決に向けて連携した指導を行うことができた。</p> <p>○スクールカウンセラーや子育て応援課と連携し、困り感のある児童、保護者の対応について検討し、指導に生かすことができた。</p> <p>○日々児童観察に努め、声をかけたり指導をしたりしながら、いじめの積極的認知や早期発見・早期解決を心がけた。また、いじめ対応チームで組織的に指導にあたることで、しっかりと児童と向き合うことができた。</p> <p>○不登校傾向の児童の保護者とは特に連絡を密にとり、登校しやすい環境作りに努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者と連絡が十分にとれず、指導が行き届かない場合があった。</li> <li>● 感染症対策を取りつつ教育活動を進めてきたが、学級閉鎖・学年閉鎖せざるを得ない状況が数回あった。</li> <li>● 「ヘルメットを着用していない」「おかしを外で食べる」など、教師のいないところでルールを守らない事案が何度もあった。また、物が壊れたり傷んだりしても、誰がしたかわからないような事案あり、全体指導しかできない場面があった。</li> </ul>
(4) 家庭・地域・校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>【発信】学校の発信力の強化</li> <li>【家庭】「そうあんくんの日」「ねるねるウィーク」の取組</li> <li>【地域】コミュニティ・スクールの連携</li> <li>【校種】小中一貫教育・園小連携の推進</li> </ul>	A	<p>○体験学習・クラブ活動、赤米の稲刈り、しめ縄作り、ミシンボランティア、ちよっと昔話の会など、地域の自然や文化、人材を活かした教育活動を広げるともに、充実させることができた。</p> <p>○5歳児と5年生による新1年生体験入学、中学校登校等を実施し、小学校、中学校に向かう心構えを養うことができた。</p> <p>○学校だよりや、ホームページ、八鹿っ子ブログ、学級通信、電話、連絡メール、家庭訪問、面談を通して、地域と学校、保護者と学校をつなぐよう心がけた。学校や担任の意図を伝えることを大切にしたい。</p> <p>○家庭とともに取り組むことができる「そうあんくんの日」「ねるねるウィーク」は、保護者もとても協力的で、お手伝いに進んで取り組んだり、就寝時刻が守れたりする児童が増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家庭によっては、学習・生活習慣の確立に課題がある。「そうあんくんの日」や「ねるねるウィーク」の意図が伝わらず協力を得にくい家庭がある。児童への指導だけでなく、保護者にも丁寧に主旨を伝え、継続した協力が得られるよう働きかける必要がある。</li> </ul>
(5) 教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>【教職員の資質向上】</li> <li>○教職員が互いに個性や能力を發揮できる職場環境づくり</li> <li>○OJTによる若手教職員の資質向上</li> <li>○風通しの良い職場環境</li> <li>【ワーク・ライフ・バランス】</li> <li>○勤務時間の適正化を図る取組</li> <li>○業務改善の推進</li> <li>○年休取得の推進</li> </ul>	B	<p>○児童の心模様や児童から発信されるサインなど、多くの職員からの情報を共有し、児童の思いに寄り添うような指導を心がけた。</p> <p>○生活指導案件には組織で対応し、児童の思いや納得を大切にしながら粘り強く指導した。また、悩みを抱え込まず声を発しやすい職場の雰囲気ができているため職員室に活気がある。</p> <p>○学期始まり・学期終わりは業務が増える時期になるため、午前中で児童を帰し成績処理や学級事務を行う時間を確保したことで、その時期の残業は減った。</p> <p>○低・中・高学年ブロックでの相談が盛んで、職員間で連携をとって業務を進めることができています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 業務改善は少しずつ進んでいるが、勤務時間が長く、退勤時刻が遅い教職員がいる。熱心さから時間過多になることもあるが、業務の精選と勤務スタイルの改善が課題である。</li> </ul>

## (学校自己評価・学校関係者評価)

### 4 総合的な学校関係者評価

<p>・「よろこびが生まれる学校づくり」を合い言葉に、本年度は行動制限なしの教育活動を行い学校に活気もどった。</p> <p>・創立150周年に当たる本年度は、地域の教育素材・人材を活用した取組が多く、地域とつながりを深める年になった。</p> <p>・国語科を中心に表現・活用力の育成をめざした研修を行い、児童の主体性を引き出す課題設定の工夫や系統性を意識した指導内容等、研修を通して多くのことを学んだ。</p> <p>・不登校傾向の児童や集団で学びにくい児童に対して、定期的にケース会議を行いながら、児童が学びやすい環境作りや人員配置を行った。</p> <p>・宿題やそうあんくんの日の取組等、保護者と連携をとりながら進める内容については、学校から積極的に発信し理解を求めていく必要がある。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の適切さ
<p>(1) 学校運営</p> <p>○コロナが5類相当に引き下げられたことで、いろんな教育活動が制限無しで再開されている。また、従来の方法から改善された取組もあり、子どもたちがいきいきと生活している様子がよくわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学力や生活力など個々に差がありそれをストレスに感じる児童も多いと思われる。個別最適化の学習を進めるため、個に応じた家庭学習やタブレットの活用等、学校からの情報発信により保護者の協力を得て進めて欲しい。</li> </ul> <p>※よってA評価は妥当である。</p>
<p>(2) 生きる力を育む教育の推進</p> <p>○今は子ども同士のコミュニケーションも減っているように思う。だからこそ、授業の中でペアやグループで話す機会がたくさんあるのがいい。運動面でも、遊びを通していろんな活動を楽しんでいる。しっかりと体を動かしたり友達といっしょに遊んだりしながら成長する。そういった仕掛けがたくさんされている。</p> <p>○「そうあんくんの日」や「ねるねるウィーク」など、学校から家庭へ積極的に発信されているが、その捉え方は家庭によって軽重がある。引き続き、目的や必要性を伝えていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● タブレットの普及で健康被害や性被害のニュースを耳にする。情報機器の活用の仕方については、引き続き学校での指導と合わせて保護者への啓発を大切にしていきたい。</li> </ul> <p>※よってA評価は妥当である。</p>
<p>(3) 子どもの学びを支える取組</p> <p>○情報共有ツールや児童理解委員会、アンケートなどいろんな方法で子どもたちの様子をつかんでいる。また、個別に対応が必要な児童も多いようで、今の教職員で努力されていることはよく分かるが、その分、先生の業務がかなり増えているのではないかと懸念する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国的に不登校児童が増加している。学校に行きにくい理由をいろいろと学校は想定しなければならない。どんなことをプレッシャーに思っているのか、児童の内面に寄り添う努力とスキルが必要だと思う。</li> <li>● 生活面では人目がないところでルールが守れないのは残念な傾向である。東井先生や草庵先生の教えが自律の心につながるよう家庭や地域と連携しながら今後も指導する必要がある。</li> </ul> <p>※よってB評価は妥当である。</p>
<p>(4) 家庭・地域・校種間連携</p> <p>○創立150周年をきっかけに運動会の「八鹿音頭」や「ちよっと昔話の会」等、地域やふるさとと関連づけた取組がよかった。また、地域に出かけて見学したり話を聞いたりする機会もたくさんあった。今後も継続して欲しい。</p> <p>○6年生の中学校登校・5才児の体験入学など、交流をもつことで進学へのギャップを減らし、期待値をあげる取組が継続されている。しっかりと連携をとりながらこれからも進めて欲しい。</p> <p>○地域コーディネーターには、クラブ活動や学習の講師の確保、地域素材についての情報提供、企画・立案など大変お世話になった。そのおかげで、充実したふるさと学習を進めることができた。引き続き、ブラッシュアップしていけるといい。</p> <p>※よってA評価は妥当である</p>
<p>(5) 教職員の資質向上</p> <p>○いろんな講師を招聘して日々研鑽に努めている職員集団でありたい。新しい教育がどんどん入ってきているため、若手もベテランも大変だろが学び続けてほしい。</p> <p>○研修の持ち方を工夫したり、低・中・高学年のブロック制でいろんな情報交換が盛んに行われているため、若手もベテランもそれぞれの得意分野が生かされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度に比べ多くの職員の退勤時刻が早くなっている。教職員の健康や活力が何より大切。児童の前ではいつも元気な職員集団であってほしい。帰宅が遅くなっている職員の業務が軽減できるよう更に改善してほしい。</li> </ul> <p>※よってB評価は妥当である。</p>